

## 令和7年8月定例教育委員会 会議録

◇開会 令和7年8月28日(木) 午前 9時00分

◇閉会 令和7年8月28日(木) 午前10時40分

◇会場 教育委員会会議室

◇出席者 教育委員会

・教育長	片山 則昭
・教育長職務代理者	吉竹 主税
・教育委員	上羽 裕樹
・教育委員	中川 卵衣
・教育委員	渕上 智帆
・教育部長	山本 浩史
・学校教育課長	小森 真一
・教育総務課長	足立 安司
・社会教育・文化財課長	吉住 健吾
・恐竜課長	松枝 満
・こども育成課長	西山 健吾
・教育総務課副課長兼企画総務係長	足立 真澄
まちづくり部	
・まちづくり部長	谷水 仁
・文化・スポーツ課長	堂本 祥子
・人権啓発センター所長	早形 繁
・市民活動課長	山崎 和也

(片山教育長)

ただいまから8月の定例教育委員会を開催いたします。会の進行上、発言の際には必ず氏名を名乗ってから発言していただきますようお願いいたします。

日程第1

前回会議録の承認

(片山教育長)

日程第1 前回会議録の承認についてですが、7月24日の定例教育委員会会議録の承認は、上羽委員と渕上委員にお願いいたしました。

日程第2

会議録署名委員の指名

(片山教育長)

日程第2 会議録署名委員の指名についてですが、本日の会議録の署名は、吉竹教育長職務代理者と中川委員にお願いいたします。

日程第3

教育長報告

(片山教育長)

日程第3 教育長報告に入ります。

7月24日、7月定例教育委員会、その後、第1回丹波市結核対策委員会25日、市町立学校管理職選考試験がりました。26日、兵庫県人権教育研究大会丹波地区大会、引き続いてJR加古川線リレーマルシェ、夜は生郷まつりへ行ってまいりました。

27日、いちじま川裾まつり。こちらも賑やかに行われていました。

28日は、火災訓練と令和7年度丹波地区教育委員会連合会定期総会及び研修会。夜は、第1回丹波市春日地域市立小学校統合検討委員会でした。

29日、総務文教常任委員会と令和7年度第1回丹波市立植野記念美術館運営委員会。31日、兵庫パルプ工業株式会社情報交換会、第1回丹波市いじめ問題対策連絡協議会、東小学校児童オーストラリア派遣壮行会がありま

した。

8月1日、政策会議、丹波市人権施策推進本部会議、それから第1回丹波市男女共同参画推進本部会議、丹波市中学校人権学習交流集会がありました。

2日、ケント・オーバン市への「若き親善大使」の壮行会。4日、地区教育長会議。5日、高齢者叙勲伝達に行ってまいりました。

6日、教育部管理職会議を行いました。その後、兵庫県公立学校・教育委員会女性管理職研修会丹波地区大会へ参加しました。7日、小学校長会役員意見交換会。8日、認定こども園協議会。9日、「竜学」実施説明会及び任命式。12日、第26回案山子まつりへ行ってまいりました。

13日、死亡叙位叙勲伝達。18日、高齢者叙勲伝達。県指導主事採用候補者推薦者選考試験がありました。19日、教育委員さんとの協議を行いました。

28日、今日、定例教育委員会。夜は、第2回春日地域立小学校統合検討委員会があります。30日、丹波市立植野記念美術館で「生誕140年 竹下夢二のすべて」開幕記念イベント。31日、第12回生郷音楽祭へ伺う予定にしております。

以上でございます。

委員のほうから何か質問等ございますか。

## 日程第4

### 議事

#### 議案第38号 丹波市地域クラブ活動補助金交付要綱の制定について

(片山教育長)

なければ、日程第4 議事に入ります。議案第38号 丹波市地域クラブ活動補助金交付要綱の制定について、事務局より説明をお願いいたします。

(小森学校教育課長)

議案第38号 丹波市地域クラブ活動補助金交付要綱の制定について、ご説明申し上げます。

部活動の地域展開を進めるにあたっては、現時点ではモデル的に地域クラブを立ち上げ、課題を検証しているところです。その際に、地域クラブ所属の生徒に係る費用の一部を補助するものでございます。

第1条は、趣旨を記載しております。第2条は、地域クラブの定義として、生徒の自主的または自発的な参加によりスポーツまたは文化芸術に係る活動を行う団体であって、丹波市教育委員会が認めるものと定義しております。2項は、補助対象となる対外競技等について定義しております。第3条は、補助対象者を記載しています。第4条は、補助対象経費として生徒の傷害保険料、対外協議等の参加費。参加費用として別表に定める金額としております。2項では、上位大会の場合、出場する生徒のみを対象とすることを記載しております。

以降、交付の決定とその取り消し、補助金の返還などについて記載しております。

補足になりますが、現時点では丹波市剣道連盟が地域クラブのモデルとして活動しております。船城小学校を拠点として、2つの中学校から5名の生徒が参加して活動しております。

なお、議案第38号の一番上の日付ですけれども、「令和8年8月28日」の日付になっておりますが、「令和7年8月28日」に訂正させてください。よろしくお願ひします。

日付の訂正、よろしくお願ひいたします。

それでは、委員から何か意見、質問はございませんか。

(片山教育長)

1点、お尋ねをしたいと思いますが、今説明の中で、モデル的に船城地域

	ですか。
(小森学校教育課長)	船城小学校で丹波市剣道連盟があります。
(吉竹教育長職務代理者)	モデル的に1つありますと。今後、交付要綱をつくっていって、モデル的にやっておられるところにこの要綱を当て込んでいく。そういうことですかね。
(小森学校教育課長)	そうです。
(吉竹教育長職務代理者)	それともう1点は、この要綱をつくった後、船城以外で丹波市内、こういうようなチームができるのか。その方向性といいましょうか、見通しといいましょうか。そのあたりのところはいかがでしょうか。
(小森学校教育課長)	1点目についてです。この後、戦略的事業ヒアリングで、この地域クラブの活動を補助する財源を予算協議することになりますので、それを受けて、今回は単年度でこの補助金交付要綱は考えております。
	あと2点目、ほかの動きなのですが、現在いくつか声をかけていただいておりまして、例えばソフトテニスの団体であるとか、こちらからも働きかけているかないといけない柔道であるとか、いくつか地域クラブとして、学校の部活動が残っているのでモデルと呼んでいるのですが、モデルとして今年度、働きかけて何とか立ち上げにこぎつけられるか、と思うところです。山南のバスケットボールなどいくつかはまだ実際にどうなるか分かりませんが、立ち上げられたらよいという状況でございます。
(山本教育部長)	若干補足ですが、先ほども申しましたように、戦略的事業ヒアリングで令和8年度からの財源を今後取りに行きます。そうなれば、この補助金の交付要綱も見直しが必要となってきます。金額、元々のある財源が違ってきます。これに関しては、先ほど申しましたように、モデル的にやっているところが大会参加するときなどの支援として補助金を出す根拠がないということで、これを制定したというところでございます。
	以上です。
(吉竹教育長職務代理者)	ありがとうございました。要望なのですが、中学校の部活動の地域展開、それに係る課題が大きくなっていますけれども、丹波市内の部活動の地域移行の受け皿がこの地域クラブで少しでも増えたらなと思っております。そういう中で、ぜひ地域クラブを設定できるな、したいな、小学生の活動を支えていきたいなという地域クラブ、機運が少しでもこれを機に盛り上がっていったらいいなというようなことも思っておりますので、ぜひ円滑に進めていただけたらありがたいと思っております。
(上羽委員)	この地域クラブ、モデルケースということなのですけれども、今後になるかと思うのですが、地域クラブになるための認定とか登録とか、そういう流れというのもモデル段階から何かイメージできるような流れがあって、それを本格的に教育委員会がするのか丹波市がするのか分からぬのですけれども、していく、そういうことを今考えられているのですか。
(小森学校教育課長)	この後に丹波市における中学校部活動の地域移行（展開）の基本方針において、こういうふうに進めていきたいということを説明させていただけたらと思っております。

(上羽委員)

分かりました。

(片山教育長)

よろしいか。ほかございませんか。

ないようでしたら、採決いたします。議案第38号 丹波市地域クラブ活動補助金交付要綱の制定について採決いたします。同意される委員の挙手を求めるます。

(賛成者 全員)

(片山教育長)

挙手全員です。

よって、議案第38号 丹波市地域クラブ活動補助金交付要綱の制定について承認いたします。

### 議案第39号 丹波市教育委員会後援名義の使用承認について

(片山教育長)

続きまして、議案第39号 丹波市教育委員会後援名義の使用承認について、事務局より説明をお願いいたします。

(足立教育総務課長)

それでは、議案第39号 丹波市教育委員会後援名義の使用承認について、ご提案を申し上げます。今回の審議案件は、4件でございます。

まず、資料6ページのみらいの学びフェスティバル製作委員会が主催される「ワークショップコレクションゲームプログラミング・おしごと編」です。

実施日は、令和7年9月21日日曜日で、会場は交流プラザふくちやま市民交流スペースです。

資料7ページから8ページは行事の目的、背景、概要など、資料9ページはみらいの学びフェスティバル関連組織の概要、資料10ページから13ページはこれまでの活動の実績、後援内容を記載しております。資料14ページから15ページは運営規約、資料16ページは役員名簿、資料17ページから18ページは6月に京都で開催された同内容の事業のチラシとなっております。

なお、申請書の6ページに戻りますが、当教育委員会以外の後援依頼先ということで、福知山市の教育委員会と書いてありますが、福知山市の教育委員会に確認しますと、これより以前に8月10日実施の福知山市的小学生と保護者を対象とした事業の申請をされているのですが、福知山市の教育委員会の後援のルールとして、こどもだけの対象の場合は後援するのですが、保護者の対象の場合は後援対象外ということで、不許可になっているようございます。そういう関係があって、今回の申請も福知山市には申請されていないということを、福知山市からは聞き取りをしているという状況でございます。ただ、丹波市の場合は保護者のみとかこどものみというような規定は特に設けていないという状況でございます。

次に行きます。19ページをご覧ください。

三田ラグビークラブジュニアが主催されます「三田ラグビーフェスティバル」でございます。実施日は、令和7年9月28日日曜日で、会場は駒ヶ谷運動公園多目的グラウンドとなっております。

資料20ページは要項、資料21ページはスケジュール、資料22ページから25ページは規約、資料26ページは役員名簿、資料27ページは昨年度のチラシとなっております。

次に、資料28ページでございます。

縁日実行委員会主催の「兵庫丹波縁日」でございます。実施日は、令和7年10月4日土曜日と5日日曜日でございます。会場は、兵庫県立丹波年輪の里となっております。

資料29ページから企画書となっており、資料30ページでは開催の概要、資料31ページは内容、宣伝方法。資料32ページは挨拶やイベントの目的、資料33ページは収支予算書。資料34ページから35ページは開催の実績、資料36ページから37ページは規約、資料38ページは会員名簿、資料39ページはチラシ案となっております。

次に、資料40ページの一般社団法人兵庫県こども会連合会が主催されます「今も昔も自然いっぱい、丹波の地」です。実施日は、令和7年10月12日日曜日で、会場は丹波市立たんば恐竜博物館、山南住民センター、元気村かみくげとなっております。

資料41ページは事業の詳細、資料42ページは収支予算書、資料43ページは団体の概要。資料44ページから48ページは定款、資料49ページは役員等の名簿、資料50ページはチラシ案となっております。

いずれの事業につきましても、丹波市教育委員会後援名義等使用許可に関する要項第3条の許可条件に適合しております、かつ要項第4条の許可の制限に該当していないことから許可決定が妥当と判断をしております。

以上で、丹波市教育委員会後援名義の使用承認についての提案説明とさせていただきます。

(片山教育長)

それでは、委員から何か意見、質問はございませんか。

なければ、採決いたします。議案第39号 丹波市教育委員会後援名義の使用承認について採決いたします。同意される委員の挙手を求めます。

(賛成者 全員)

(片山教育長)

挙手全員です。よって議案第39号 丹波市教育委員会後援名義の使用承認について承認いたします。

## 日程第5

### 報告事項

#### (1) 寄附採納報告

(片山教育長)

日程第5 報告事項に入ります。

寄附採納報告について、をお願いします。

(吉住社会・教育文化財課長)

それでは、寄附採納報告をさせていただきます。資料は51ページです。このたび、丹波市立植野記念美術館に対しまして寄附の申し出がありましたので、ご報告いたします。申し出をいただいたのは佐藤和子様で、寄附物件はサイネージディスプレイが1台、見積価格は10万円相当となっております。今後、美術館において、イベントなどの周知に活用するため、ありがとうございましたお受けしたいと考えております。

以上、寄附採納の報告を終わります。

(片山教育長)

ただいまの報告につきまして、何か質問はございませんか。

(上羽委員)

サイネージディスプレイとは、どのようなものですか。

(吉住社会・教育文化財課長)

大きいモニターで広告が順番に映り変わっていくようのがショッピングセンターなどいろいろなところにあると思うのですけれど、それを寄附いただいて、美術館に入って右手のところに掛けておりまして、イベント情報の告知であったりとか、そういう情報発信に活用させていただいております。

(上羽委員)

分かりました。

(片山教育長)

ほかございませんか。  
なければ、寄附採納報告を終わります。

## (2) 行事共催・後援等報告

(片山教育長)

続きまして、(2) 行事共催・後援等報告についてお願ひいたします。

(足立教育総務課長)

行事共催・後援等の報告につきましては、資料の52ページに掲載しておりますとおり、2025丹波市長杯空手・キック不動心杯選手権大会をはじめ全部で4件、全て後援でございます。それぞれ丹波市教育委員会後援等名義使用許可に関する要項に基づき、許可条件に適合し特に問題がないことと、公的または恒例の行事であるため、専決処分により許可をしたもので、報告とさせていただきます。

(片山教育長)

ただいまの報告につきまして、何か質問はございませんか。  
質問がなければ、行事共催・後援等報告を終わります。

## (3) 丹波市立丹波竜化石工房条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

(片山教育長)

続きまして、(3) 丹波市立丹波竜化石工房条例施行規則の一部を改正する規則の制定についてお願ひいたします。

(松枝恐竜課長)

それでは、丹波市立丹波竜化石工房条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、ご説明させていただきます。

資料は、53ページと54ページでございます。54ページをご覧ください。今回の規則の改正につきましては、先にリニューアルオープンをいたしましたが、たんば恐竜博物館の条例を制定いたしました。その際に、条例上で施設名を改称いたしております。それに伴いまして、規則のほうも施設の名称を丹波竜化石工房からたんば恐竜博物館へ改正するものでございます。内容としては、以上でございます。よろしくお願ひします。

(片山教育長)

ただいまの報告につきまして、何か質問はございませんか。  
質問がなければ、丹波市立丹波竜化石工房条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、を終わります。

## (4) 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

(片山教育長)

続きまして、(4) 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の概要についてお願ひいたします。

(小森学校教育課長)

それでは、令和7年度全国学力・学習状況調査結果の概要について、ご説明申し上げます。資料55ページからご覧ください。

1 調査の目的。本調査の目的につきましては、学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること。児童生徒への指導の充実や学習状況の改善に役立てることの3点となっております。

2 調査の対象学年。全国の小学6年生と中学3年生を対象とした調査になります。

3 調査の内容。記載しておりますとおり主に2種類の調査があります。

まず、(1) 教科に関する調査。今年度は毎年実施される国語と算数・数学に加えて理科の調査を実施しました。理科は、3年に1回の調査となっております。

②の下段に記載のとおり、中学校の理科については、生徒がICT端末を用いて文部科学省のCBTシステムによるオンライン方式で実施しております。

また、(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査。小・中学生ともにCBT、ICT端末を用いた調査となっております。

4 調査日。基準日の4月17日としておりますが、一部別日で実施しております。小学校の児童質問紙は、4月18日から4月30日までで回答することとなっております。また、中学校の理科は、4月17日に集中すると回線がパンクしますので、4月14日から4月18日の内で学校が指定した日で実施することとなっております。

5 実施状況。今年度は小学校6年生473名、中学校3年生515名が丹波市から参加しました。

#### 6 調査結果。

(1) 教科に関する調査。各教科のスコアについては、小・中学校の国語、中学校数学、中学校理科においては、全国平均正答率とほぼ同程度、プラスマイナス5ポイントの範囲内でありました。小学校算数、小学校理科は、全国平均正答率を下回る結果となりました。いわゆる二極化の状況は、どの教科、どの校種も見られませんでした。正答がゼロ問、1問という最下位層は全国よりも少ない状況になりますが、全体的に中高位層が多く、上位層が少ない状況がありました。

令和6年度と比較すると、小学校の国語、算数においては、学力高位層、いわゆる正答率80%以上が減少し、学力の低位層、正答率50%以下が増加しました。中学校国語、数学においては、学力高位層が増加し、学力低位層が減少しました。

2ページ目下段から各教科の成果と課題を示しております。白丸が全国よりも正答率が高い設問から、黒丸が全国よりも正答率が低い設問から幾つかピックアップして記載しております。それぞれ文部科学省が示した設問の趣旨を示しておりますが、結果がよかつたり悪かつたりの要因については、今後、誤答の傾向、少し時間をかけて詳細に分析していきたいと思います。

全体的な丹波市の傾向としましては、今回課題のあった小学校算数、理科については、算数ではデータ活用の領域、理科では生命を柱とする領域に特に課題が見られました。今回、成果が見られた中学校の国語、数学については、国語は短答式で記述する設問が大変よく、数学では小学校で課題が見られたデータを活用した領域に成果が見られました。

また、今回から中学校の理科がICT端末を用いて学校が決めた日に実施できるようしたため、全員が同じ問題ではなくて、異なる問題を解いて児童生徒の正答、誤答が問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区分して分析する統計理論IRPという方式で実施されました。それによって改めて分かったのは、丹波市の生徒は通常難易度の問題は全国よりも正答率が高いのですけれど、難易度の高い問題になると正答率が低くなるという傾向が明らかになりました。今後の学力向上の取組につなげてまいりたいと思っております。

資料、57ページをご覧ください。(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査。表にしている部分です。全国平均よりも上回るものに白い上向きの三角、下回るものに黒い下向きの三角をつけております。基本的生活習慣については、全国平均と同程度でした。自尊感情や夢や目標をもつことについては、「自分によいところがある」という自尊感情については全国平均と同程度でしたが、「夢や目標を持っている」という設問については、小・中ともに

課題が見られました。この項目については、ここ数年、全国平均を上回ることができており、丹波市の課題だと捉えております。

規範意識については、大体、全国と同程度でございましたが、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という項目については、小・中ともに全国平均を上回っていますが、特に中学校では、全中学校で全国平均を大きく上回っております。

次、地域社会への関心については、全国平均と同程度でした。

I C Tを活用した学習状況は小学校のみの設問になっておりますけれど、下の2つ、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」、「友だちと考えを共有したり、比べたりしやすくなる」という、いわゆるプレゼンへのI C T活用について小学校で課題が見られました。

主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善の項目では、「自分の考えをまとめる活動を行っている」については、小・中とも課題が見られました。プレゼンをすることや自分の考えをまとめる活動といった課題は先ほど報告した教科に関する課題ともつながってくると思いますので、少し分析をしていきたいと思います。

58ページの学習に対する興味・関心や授業の理解度については、小学校の算数、理科で課題がありました。7割以上の児童は、社会に出たときに役立つと回答しておりますが、全国の平均と比べると低いので三角をつけております。分かったと言える、実感できる授業づくりをもう一度進めていかなければならないと思っております。

7、今後の対応。まず(1)のとおり、各学校において調査を分析し、改善策を講じるよう指示しております。

(3)のとおり、指導主事が1校ずつ訪問し、各学校における授業改善の進捗状況を確認するとともに、分析結果について協議し、学校の課題に応じた指導助言を行ってまいります。

また、(4)のように、調査結果公表資料を作成し、10月下旬には市教委のホームページで公表する予定です。公表内容は、学力における課題と生活習慣の相関関係を表し、保護者や地域の方にも協力していただくことを提案できる形にしたいと思っております。なお、本調査において測定できる学力の特性の一部ですので、学校における教育活動の一侧面であることを踏まえて、数値による表記は行わないこととしております。

また、(6)のとおり、12月には、小学校3年生から中学校2年生を対象にした市独自の学習定着度調査を実施する予定にしております。

以上でございます。

(片山教育長)

今の報告につきまして、何か質問がありましたらお願いいたします。

(渕上委員)

詳しくありがとうございます。子どもが学力調査を受けたのですが、やっぱり国語とか算数は意外とできるけれど、理科がすごく難しかったと言っていまして、ふだんの授業は最近、専科で違う先生が理科を教えてくれるようになって、担任の先生と違う先生が来てくれるから興味があるし面白いとは言っているのですけれど、6年生になってから急に難しくなったのか、専科になってとか何かそういう違いとかもあったりするのかなというのと、今回、苦手なこととか理科が難しかったりするじゃないですか。これについて授業の内容を変えるなど、それは話し合われて全体で進めていく感じなのでしょうか。学校独自でやるのか教えてほしいです。

(小森学校教育課長)

小学校の理科については、丹波市特有の課題があります。と言いますのも、中学校が教科担任制なので小学校の高学年も教科担任制をしようというのが全国で広がっていて、それができるように国から加配の教員が充てられる

のですが、丹波市内の学校は大体1学年1学級という小さな学校ばかりですので、国から措置される加配が常勤教員じゃなくて週3日ほどの教員、非常勤の教員が充てられます。その教員の持つ時間数というのは決まっているので、その教員にどの教科をしてもらおうとなると、ちょっと算数は時間数が足らないなということなので大体、理科か体育。年配の方は体育ができないので理科というパターンが非常に多くて、市内の小学校の高学年の理科は、専科の先生が理科を教えるというのがかなり多い。

その中で、年配の先生の理科の特徴としては、非常に体験豊かに面白い授業をしてくださるというところがあります。たくさん知っておられますし、自分がたくさん指導してこられたので、本物を触らせるなど、こう見て観察させると面白いということで、理科好きのこどもは増えているはずなのですが、ＩＣＴを使った授業との差というのがまだまだちょっと大きいところがありまして、そのあたりは今後、学校の中でも、研修しようと思っても、その先生が今日いないとか早く帰られるとかが多くありますので、そのあたりをどうやって研修を高めていくかというところは、1つ課題があるのかなと思っています。

ただ、理科好きが増えているかなと思ったのですが、そこもちょっと増えていなくて、理数教育が大切だと言われていますので、学校と一緒にになって分かる、分かったと言える、好きだと言えるような授業づくりをしていけるように改めて検証を積んでいきたいと思っております。

(片山教育長)

ほかございませんか。

(中川委員)

夢や目標を持っているというのが全国平均を下回るというのがちょっと残念なのですけれど、これってみんな保育園のときからずっと一緒に、差異がないという地域的なことなのでしょうか。全国そういう地域はもちろん多いから全国平均を下回る理由にはならないけれど、やっぱり都会だったら、もっと選択肢があって、いろいろな職業を見ていたり知っていたりするっていうところから出てきているのか、小・中を通じて低くなる原因は今のところ、これかなと思っているところはあるのですか。

(小森学校教育課長)

例えば小学生について、どれぐらい夢を持っているかということをこの割合で出せば、半分ぐらいのこどもが持っていないと答えてるわけではないのですが、それでも全国同じようにやっていったら、全国同じような数字が出てこないといけないというところで、全国よりも低いところじゃないかなとなっております。

ただ、学校で様子を見ていたら失望感が広がっているとか、こどもが将来の展望を描けていないとかいうわけではなくて、「何になりたいですか」と去年、教育長と一緒に学校を回って全学年のこどもに聞いたときは、割とつきり言えたのです。本当に夢ですけれど言えていましたので、この結果よりも結構、夢を持っているなというのは現場へ行って感じていたのですけれど、どうしてもスコアになったときになかなか書けない。校長の分析としては、明確な職業が身近になかったりする部分は影響するのかなと。田舎にない職業が今多くてという部分があるのかなというようなことを聞いたりもしています。

また、それが教育委員会として精査した分析ではございませんので、ここはこれだけ続いていますので、一度、校長会等とともに考えていかなければならぬかなと思っています。

(片山教育長)

恐らくですけれど、学年にもよるのですが、まだ分からないということもさんも、何なしに自分ではそう思っているけれど言うのが恥ずかしいとか、

今言ったってまた変わるのでないかということを思うとか。だから例えば小さい子やったらプロ野球の選手になりとかケーキ屋さんになりたいとか、そういうことはおそらく同じようにあると思うのだけれど、それを表現したり言うたりすることに躊躇したりとか、まだ自分がどういう方向に向いているのかということが分からぬとか、結構そんなことがあるのではないかと感じています。個人的に聞いたら、今、小森課長が言ったように、言う子は結構多いので、そんな感じかなと思います。決して、そんなに悲観するとか、悪いことではないと思うのですけれど、自分なりに持っていて、うまく言えないというような感じの子ほうが多いのではないかという気がします。

ほかございませんか。

(吉竹職務代理者)

何点かお尋ねというか要望になるのかも分かりませんけれども、毎回、学力調査の概要をご説明いただくときに思うのですが、1回ぼっさりの調査で丹波市のことどもたちの学力がどうのこうのというところまでは行かないのかなと思いますが、よいに越したことはないというのが1つです。いつも分析のところで、全国平均とほぼ同じです、全国平均よりもやや下回っていましたという大まかな評価でご説明をいただいて、全国平均と一緒になのだな、ちょっと下なのだなという感覚で受けるのですが、先だっても新聞報道で全国の平均が下がってきてている。全体的に下がってきてている。下がってきてている中で、丹波市の報告を受けて、全国の平均と大体一緒ですわという報告を聞いたら、これは同じレベルなのだなと捉えるのか、全国の平均が下がっているのだから、丹波市の平均も下がっているということなのですよね。だから、そういう評価の仕方というか、見方というのも1つあるのかも分かりませんけれども、もう少し客観的に本当に学力としての調査の結果がどうだったのだということも捉えていかないといけないのと違うかなと思います。

ですから、それを見て関連をするのですが、毎回、授業改善に取り組みますということで対応を教えてもらっているのですが、本当に授業改善って何なのだろう。どこまで学校の先生方がこどもたちに少しでも身につくような授業をしていくかというところがどこまでできているのだろう。市教委のほうも指導主事の派遣とかということで、いろいろご苦労をしていただいたり取り組んでいただいたりしているということは十分分かるのですが、結果的に宿題1つの出し方についてもどうなのだろう。例えば去年よりも学年が上がったのに、宿題の出し方が変わって全く勉強しないようになったわというおうちがあるのかも分からぬ。だから、1つの学習の取組でも、1つの学校単位として1年生から順番に6年生まで段階を追ったような指導ができているのかどうかというようなことも含めて吟味をしていく、検証をしていくということも、これは1回ぼっさりでそういうことができましたわということではないのでしょうかけれども、絶えず検証していく姿勢を教育委員会のほうから示していただけたらありがたいなと、そんなことを思うのです。担任が変わったら授業のやり方が変わって、去年と変わってこどもが困っているわというような声があるかも分からぬ。ないかも分かりませんよ。そういうようなことも含めて、ぜひこれを機に確認をしていただいたらありがたいな。要は、テストをやってできるほうがいいな。いわゆる基礎学力をしっかりと身につけてほしいなということを思います。

それともう一つは今、出ておりましたけれど、生活習慣等の質問調査で見させていただいたら、下向きの黒三角のほうが随分多いのです。これは全国平均と比較してということの表記の仕方かも分かりませんけれど、やっぱり上三角の白三角のほうが多かったらありがたいなというふうに思っています。だから、せっかくの機会なので、調査なので、この背景は何だろうということを分からぬかも分かりませんけれど、学校と一緒に考えていくたり、家庭のほうにも示していただいて原因を考えていただいたりするきっかけ

にしていただければありがたいな、そんなことを思っております。

(小森学校教育課長)

まず1点目、授業改善のところですけれど、丹波市の教育のほうでは授業改善、例えば子どもが自己調整しながら自分で考えて進めていく学習が広がってきて、割と定着していますということを最近話すようになったのですけれど、ただそれと学力が結びついているのか、それによって学力が身について高まっているのかというあたりは、しっかりと検証していかないといけないなと思っています。こういう取組をするべきだというのを広がりはしているのだけれど、それが本当に子どものためになっているのかというところをもう一度、指導主事と研究を進めていきたいと思っております。

2つ目の児童生徒の質問紙については、やっぱりこれは学校だけで考える問題ではなくて、学校運営協議会にかけてオープンにして、うちの学校の課題はこれだというよい材料かなと思いますので、このあたり一校一校、校長とも面談しますし、学校訪問にも行かせてもらいますので、この課題はどのように取り組まれるのかあたりはしっかりと黒三角のところは学校と協議をしていきたいと思っております。

(片山教育長)

学力のほうも生活習慣のほうも、この部分だけでいうと、今、黒の三角とか白の三角、こうなるのですけれど、今言われた内容をきっちりしようと思ったら、それぞれの学校でそれぞれの担任がデータを収集せんとあかんと思うのです。もともとはこういう状況であった。でも、こういう授業をやつていったら、こういう授業を改善していいたら、子どもの理解度が増した、増さなかつたとかいうことをやっぱりきっちりと子どもにも親にも分かるようにしていかないと、それじゃないとはっきりしたことは出てこないと思うのです。私がよく言うのですけれど、感想文でものを言わないようにということをよく言うのですが、学校の先生って割合そういうところがあつて、何となくできたような気になっているみたいなところがある。それが理科、数学みたいなところは、はっきり答えが出るから分かりやすいところがあるのでけれど、でもそれ以外でも話し合いの回数がこうやって増えたとか、いろいろなデータの取り方があると思う。それはだから、自ら考えて自ら行動するようなことだと、先ほど中川委員のほうからあった夢や希望を持っているかということが4月の時点ではそれを聞いたら全然なかつたけれど、ずっと行って年間通していろいろなことをやる中で3月に終わるときに聞いたら、夢や希望を持っている子がこれだけ増えたということが分かれば、そういうことが分かってくると思う。そういうデータの取り方というのか、取組方という、そこらあたりを指導主事が訪問するときなんかもきっちりこれから抑えていって、見直して、それを出していく必要があるのではないか。そうしたら、もう少し細かいことが分かるし。先生自身も自分のやっていることが合っているのか間違っているのか、効果が出ているのか出でていないのかというところが分かるようになると思うので、そんなことをまた学校恐育課のほうでまた行くときに考えていったら、今、吉竹委員がおっしゃったことについてはより分かりやすく、この結果とはまた別になるかもしれないけれどということをちょっとと思いました。

ほかございませんか。よろしいか。

それでは、質問がなければ令和7年度全国学力・学習状況調査の概要について終わります。

## (5) 丹波市における中学校部活動の地域移行（展開）基本方針（案）について

(片山教育長)

続きまして、(5) 丹波市における中学校部活動の地域移行（展開）基本方

針（案）について、お願いいいたします。

（小森学校教育課長）

丹波市における中学校部活動の地域移行（展開）基本方針をご覧ください。一部差し替えの資料がありますが、これは後ほど説明させていただきます。

丹波市では、令和3年4月に地域部活動検討委員会を実施し、学校教育課とまちづくり部文化・スポーツ課をはじめ、市の中体連、中学校校長会、市のNPOなどの代表を交えて部活動の在り方について協議を重ね、令和5年度末には一定考え方をまとめておったのですけれど、今年の5月に国から示された新たな方針にのっとり、市の推進計画を見直すものでございます。本日は、大きな変更点やポイントのみを絞って報告差し上げます。

まず、3ページ、1 部活動の現状と課題をご覧ください。部活動の現状と課題と題して、なぜ部活動改革を進めなくてはならないのかを説明しております。昨今の報道により、教員の働き方改革のために部活動がなくなるという誤った認識のほうが広がっておりますので、改めて背景と目的を周知しているところでございます。丹波市においては、このように児童生徒数のさらなる急激に減少が見込まれますので、このままでは部活動が維持できないというところが、大きな背景にあります。

（4）学校部活動の地域移行（展開）に係るアンケート結果では、中学生、小学生、保護者のアンケート結果を抜粋して掲載しております。ざっと小・中・保護者のアンケート結果からいようと、学校の近くにあれば活動させたいという意見が非常に多くて、活動内容としてはほどよい時間、指導が優しく丁寧、気軽に、緩やかにスポーツや文化活動ができるというのがいずれもベスト3に入っているというところでございます。

続いて6ページには、丹波市が目指す今後の部活動改革を記載しております。一番下になるのですけれど、部活動改革は、学校と地域の連携・協働による地域ぐるみでの人づくりの好機ととらえ、こどもたちのニーズに応じてスポーツ文化芸術活動に親しめるよう、一人ひとりの「やりたい」が実現できる環境整備をすすめることとしております。

7ページ、3 基本方針及び地域移行（展開）スケジュールになります。このあたり、先ほど上羽委員からご質問あったところかと思っております。

（1）基本方針ですけれど、まず1つ目、令和8年9月以降は、休日の教員による部活動を終了し、休日活動は地域クラブへ移行するのが基本方針の1つ目です。少し補足すると、土日に教員もほかの労働者と同じように休日なので休息する日なのですけれど、部活動があるため出てこなければいけないという状況を、これは改善しないといけないということで、もちろんその中にはやりたいという教員もいますから、それはちょっと別のルールをつくるのですが、一般的にやらなくてもいいという形になります。やりたいという教員については、兼職兼業のルールをつくっておりますので、教員じゃなくて地域住民という形で関わっていただくという方法をとっていくこうと思っております。

2つ目の黒点、改革完了期間である令和11年から令和13年の間に全ての学校部活動を終了し、これは平日も同様です。地域クラブへ移行する、展開するということを方針としております。

少し詳しく書いているのが、（2）地域移行（展開）スケジュールになります。ここでは、国や県が示す対策期間をある程度準拠しながら、丹波市でどのように進めていくかということを表として表しているところでございます。

続いて、8ページ、4 丹波市地域クラブです。ここには、地域の受け皿となる地域クラブの要件を示しております。今行われている部活動の精神を引き継いでというところになりますから、中には活動時間とか休養日を適切にとることとか、体罰の禁止であることとか、そういうことも要件に含まれ

ているところでございます。

9ページ以降は、地域クラブの運営や活動ルールを示しています。(3)適切な運営や効率的・効果的な活動の推進の①では参加者は誰か、②で実施主体は誰か、③で指導者はどうするのか、10ページの④で活動場所、それから経費、傷害保険などについて記載しております。

また、10ページの(4)学校との連携で先ほど申しました教職員が地域クラブで指導できるよう定めた兼職兼業についても記載しております。

11ページの5丹波市地域クラブの活動推進に向けて、は誤植がありましたので、別途配っているファイルをご覧いただけたらと思います。

まず、①改革推進・実行期間、いわゆる令和7年度から10年度としておるところですけれど、部活動の地域展開を円滑に進め、生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会を確保することを目的に、教育委員会内に部活動地域展開担当を置いて、以下の役割をしますということで主なものを書いております。

また、②改革完了期間は、令和11年度から13年度については、引き続き教育委員会内に部活動の地域展開担当を置いて、さらに一歩進んだ取組を進めるということを書いています。

12ページの(2)支援制度。別途配付している資料の2ページ目です。

支援制度としまして、これを進めていくには財政支援が必要になりますので、地域クラブは将来的な受益者負担として全額または一定額を保護者に負担いただき運営する方向性ではございますが、運営が軌道に乗るまでは当面、必要な経費を補助できるよう今後、財政協議を進めていきたいと思っております。

以上でございます。

(片山教育長)

ただ今の報告につきましてご質問等ありましたらお願ひいたします。

(吉竹教育長職務代理者)

大変な課題で、県下でもいろいろな課題が生じているということは承知をしておるのですが、今説明をいただいたのですけれども、改めてですが、丹波市の中学校の部活動の地域展開を行うに当たって、丹波市が抱えている課題は何ですかと問われたら何なのでしょう。丹波市はこれが問題ですというのは幾つかあると思うのですが、それは何なのでしょうか。

(小森学校教育課長)

子どもの立場に立つと、自分が通える範囲に地域クラブができるかどうかというところが課題だと思っています。丹波市は谷あいに6町がありますので、市内で6中学校の場合にそれぞれ例えばバスケットボールの地域クラブができたらいいのですけれど、例えば青垣中学校とか生徒数が既に少ないところに部活動から地域クラブに切り替えて、いる生徒は一緒なので、入ってくる生徒も一緒。それだけでは成り立たないので、結局、青垣中と氷上中が例えば1つの地域になってバスケットボールの地域クラブをつくるというのがある程度現実的かと思うのですけれど、じゃあどうやって通うのかというところが1つ課題になってくるのかなと思っています。

そのときに親の力が必要になると、親が仕事を休まなければならないですし、子どもが公共交通で行くとなったら公共交通が整備されてないといけないですし費用もかかる。今、中学校の部活動のよさというのが、やっぱり親の経済状況に關係なくどの子も等しく自分の興味あるクラブ活動に参加できるというところがありますので、さらにその移動時間がからずに活動ができるということがあるので、これを地域展開したときに受け皿が幾つかできたとしても近くになくなってしまうというところが大きな課題なのかなとは思っております。

(片山教育長)

ありがとうございました。ほかありませんか。

(上羽委員)

受け皿という部分は本当に今後、十分確保できるような見通しはあるのでしょうか。

(小森学校教育課長)

議会でも受け皿を早くしっかりと作っていくべきじゃないかというご質問を毎回ある議員のほうから受けておりまして、積極的に「自分が声をかけていくよ」と言ってくださっているような方もいらっしゃるのですけれど、今の部活動の時間帯で受け皿をつくろうと思うと難しいのかなと思っています。受け皿になってくださる多くの方は、ほかの仕事をされていますので、それに見合う対価が部活動の受け皿、地域クラブの指導者として払えるかとなると、なかなか難しいのかなと。国のはうは、いざれ受益者負担と言っていて、月3,000円程度が望ましい。アンケートから大体3,000円から5,000円かなと想像されるようなものを出してきているのですけれど、例えば、丹波市の中学校の規模を考えたときに30人集めました。月3,000円集めました。年間100万円でやらなければなりませんとなつたときに、こどもたちのバス代も出さないといけないし、保険料を考えたときに、その方が得られる対価というのが時給1,000円とか1,500円ぐらいに落ちてくるのではないかと考えたりするのです。そう考えたときに、なかなか受け皿として気持ちはあるけれど、本当にボランティア精神がないとできないところかなと思いますので、ある程度、日にちが限られて、時間帯も配慮してというところを認めないといけないのかなと思っています。

ただ、もっと出てこないのかなと思っていたのですけれど、最近いくつか、三、四種目のほうから、どうかという声を聞いているので、これから教育委員会と該当種目の部活動の指導者と声をかけてくださっている方、受け皿となってほしい方と少しずつは対応していけたらなと思っています。

(上羽委員)

ありがとうございます。すごく大変なことやとは重々承知しているのですけれども、このペースでいくと、なかなかやっぱりこどもたちが、ここに書いていることは選択肢を増やすと書いているけれども、このままだと選択肢が狭まる可能性もやっぱりあったりするのではないかという恐れも感じるので、大変やと思うのですけれど何とかうまい方法というか、僕たちも考えていいかといけないと思うのですけれど、その書いていることと、このペースというのは、まだそこまで行っていないのかなという印象は正直受けました。

(片山教育長)

土日の場合には先ほど小森課長が言ったように、休みの方があるとか、それもある程度ボランティア精神があつてやろうかなということもあるのですけれど、平日の部活動になると時間がなかなかやっぱり取りにくいということがあるのと、それと先ほどアンケート調査の結果にもあるのですけれど、先ほど課長が説明したように、あんまりきつい部活じゃなく、緩やかな部活がいいとか、そんなガチガチにしなくていいとか。先生方もどちらかと言うとそういう傾向がある。ただし、先生方も先ほど報告があったように、やりたい言う人もいるので兼職兼業でやっていただくというようなことも、それは可能ではあるので、私が一番課題だと思うのは指導者の質の問題だと思うのです。某高校の野球部も何かいろいろ出ていたのですけれど、ああいうようなことが起こらないとも限らない。それと、ボランティアでやってやろうかなという方も何人か聞いたのですけれど、気持ちはあるけど責任まで言われると、とかいうことも言われる方が結構あって、文科系のところの協会の方に若い子がいないので、中学生が参加したらどうかというようなことを言つたら、それはよいが誰か先生1名ついてきてくれないかと。責任の問題があるということをやっぱりおっしゃるのです。だから、若い子に来てもらう

のは非常にうれしいけど、それもまたなかなか大変だということを思つたりするのです。

他市町でいろいろと新聞に出て、いつから地域展開始めますとかいっているところをニュースで見られたことあると思うのです。それに比べて丹波市は遅いのではないかという話が当然あちこちからあるのですけれど、私が教育長会議で他市町の例をそうやって新聞に出しているところ、あと今どうなっているのか聞いたら、なかなか前に進んでいないのが現実で、同じような課題がやっぱり都会であっても出てきているみたいなところがありまして、非常に難しいなって思うのです。

だから、慎重にやらなくてはならないということで、最初に小森課長が言ったように、先生の働き方改革じゃないのだよという基本姿勢。やりたいこともできない、やりたいこともできるようにするにはどうしたらいいかということが、そのところの筋を曲げないようにしたらどうしたらいいかということで、これからスケジュールを見てもらって非常に長い期間かけてやろうとしているのは、そういうところが非常にあって、慎重にやりながら、できるだけ子どもたちの意向に沿えるようにと考えていますので、教育委員会だけでできるものではありませんし、まちづくり部の文化・スポーツ課とも協力しながらやっていく必要がありますし、市町によったら教育委員会から離れて、もう全部まちづくり部に移行しているところも実際あるので、そちらのほうでやってくれと。教育委員会はもう部活は関わらないというところもありますけれど、先ほど言ったようにやっぱり課題も結構出ているので。そういうスケジュール感がそういう長い期間になったところがあるということで、また意見をいろいろ言っていただいて、できるだけ子どもたちの意向に沿うように頑張っていきたいなとは思っています。

(渕上委員)

先ほど教育長が言われたように、私も質が問われるかなと思っています。この令和13年度まで長い期間をかけて移行していくということで、十分な準備期間はあるのかなと思います。すごく大変なことがたくさんあると思うのですが、その間で指導者とか安全対策とか保護者との連携とか、そういうところをしっかりと進めていって、質の高い移行をやっていただけたらなと思います。その中で指導者の質が大事だというときに、その告知をされるときに例えば指導料が幾らだというのも明確にされて、これが金額だからきちんと教えられますとか、何でもかんでもボランティアでやつたら、さっき言われたようにいろいろなレベルの指導者になったりとか、発言であつたりですとか多分あると思うので、募集されるときの仕方を本当にきちんとされるといい人もたくさん集まってくれるのかなと思います。

もう一つ、質問なのですが、結局、平日の部活は令和13年度まではあるのでしょうか。結局、いつまで部活があるのかなというので、子どもや保護者の間で、今、いろいろな情報が錯綜していまして、この令和8年度から部活がないと捉えている方もいらっしゃって、じゃあどうしようというので結構不安になっている方もいるので、実際、どうなのかなというのを教えてほしいです。

(小森学校教育課長)

まず、今後の予定を先に説明させていただくと、いくつか議会と府内の会議を経て、最終的には11月ぐらいに児童生徒・保護者向けにこうなりますというような案内プラス受け皿の募集というチラシを出そうと思っています。いつで終わるというよりも、今申しましたとおり、モデルと言いながら土日の受け皿、平日もやるというような受け皿を少しづつ増やしていくよういうのは今から始めようと思っています。

ただ、最終的に学校の部活動を終わりますというのが、土日は令和8年の8月、種目によって違うのかもしれませんのが8月をもって終わる予定です。

平日については、令和11年度から13年の間には終了を迎えるという形で考えています。

(片山教育長)

よろしいか。

(吉竹教育長職務代理者)

ありがとうございました。この部活動の地域展開いろいろ見させてもらつたら、とてつもない課題がたくさんあって、今教育長が言われた指導者の問題、受け皿の問題や経費の問題、活動場所の問題や先生の兼業の問題とか、いろいろあって、どこから手をつけたらよいのかなという大きな課題で、県下の市町でもいろいろと苦慮されているというのが象徴しているのですけれども、先だって兵庫県の市町村の教育委員会連合会の研修会があって、そのときに県教委の体育保健課の課長さんのほうからこの件について今の状況とか今後の方向性について説明がありました。それもお聞きしたのですが、その中で課題を6項目にわたって整理をされていました。その6項目の中に、今日出たいろいろなお話が全て包括をされているのですけれども、6項目の検討を今年度から県のほうで専門部会をつくって検討していきますという説明があったのですが、ぜひ私も県教委のほうにお伝えする機会があれば言いたいと思うのですが、専門部会で検討された協議の内容とか、それから今後の方針とか、こういうような方法がありますよというようなものを各市町の教育委員会にぜひ伝えていただいて、それを参考になる市もあれば、ならないところもあるかも分かりませんけれども、ぜひ県の情報とか、あるいは他の市や町の取組の状況とかいうのを取っていただいて、そしてひょっとしたら丹波市でも生かすことができるアイデアがあるかも分からぬと思うのです。ですから、ぜひそういうような県の情報とかも取っていただいて、検討材料の1つにしていただいたらなというのが1つと、もう1つは常々思うのですが、この課題をいろいろ見ていたら、どっちかというとソフト面よりもハード面の対応のほうがずっと出てきているのです。それも大事なのですけれども、さっき教育長もおっしゃっていましたが、それを活動することもにとってどうなのだということを忘れずにぜひやっていただきたい。今まで、野球したい、バスケしたいという思いの中で同じ仲間とやっていきたい、そういう活動の場所というのは教育的に物すごく効果があつて、尊い時間だったと思うのです。それを形が変わることによって、その教育の質というか、こどもたちにとってプラスになった時間が変わらないように保障をしていく。ですから、1つの施策を打たれたときに、もう一方でこどもたちの思いとか反応とかというのも並行して確認をしていただきながら、ぜひやっていただいたらありがたいな。それはずっと長い期間で見てやっていただきたい、最終的にどうなるか分かりません。国もどういうふうに変わってくるか分からない大きな課題なので、少しゆとりをもつて、できるところからやっていっていただいたらありがたいなと思います。

大変な課題ですけど、ぜひよろしくお願ひします。以上です。

(片山教育長)

ありがとうございます。随時、また報告しながら進めていく、ということでよろしいですか。

それでは、丹波市における中学校部活動の地域移行（展開）基本方針（案）について終わります。

#### （6）令和7年度9月補正予算の概要について

(片山教育長)

続きまして、（6）令和7年度9月補正予算の概要についてお願ひいたします。

(足立教育総務課長)

それでは、9月補正予算の概要について報告をいたします。

資料は、59ページから61ページとなっております。まず、資料59ページの歳入になります。

はじめに、真ん中の2番をご覧ください。学校給食費の減免事業でございます。物価高騰による子育て世帯の負担軽減として、市内小学校及び県立特別支援学校の児童の給食費を令和7年10月から令和8年3月まで、半年間にになりますが減免をするものでございます。給食費の減額は、予算ベースで小学生2,419人分の半年分、総額6,341万4,000円となります。

1人当たりにしますと、予算ベースで1食245円の半年分107食となるのですが、2万6,215円の減額ということになります。

なお、財源につきましては、1番になりますが、6,341万4,000円のうち3,440万9,000円について物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用することとしておりまして、市の負担につきましては、給食費の減額と臨時交付金の差額となる2,900万5,000円となります。

次に、3番目の学校施設環境改善交付金でございますが、後ほど歳出でも説明させていただきますが、柏原・氷上学校給食センターの空調設備工事に伴う令和7年度分の国の交付金となります。

次に、60ページをご覧ください。次に、歳出となります。

まず、1番目でございますが、学校給食管理事業となります。令和7年度から令和8年度にかけて、柏原・氷上学校給食センターの空調設備の更新工事を行うものでございます。補正予算額は、令和7年度分が158万3,000円、令和8年度の債務負担行為は1億5,985万3,000円で、総額1億6,143万6,000円となります。柏原・氷上学校給食センターにつきましては、運用開始から18年を経過しておりますが、学校給食運営基本計画でありますとか、第7次の学校施設整備計画に基づいて更新をするものでございます。

なお、工事につきましては、給食を提供しない長期休暇中になります夏休みに実施したいと考えておりますが、機器の製作に約4か月程度要するため、7年度中に契約が必要となるために、今回補正をするものでございます。

次に、学校教育課から報告をいたします。

学校教育課分の歳出について、ご説明申し上げます。

教育情報化事業1つ目として、教職員用タブレット端末購入費1億4,571万3,000円を債務負担として9月議会に計上します。令和2年度に小・中学校に導入した校務用パソコン、いわゆる教員が職員室で校務処理に使用するパソコンの更新費用です。債務負担行為としましたのは、教職員の負担が少ない夏休みに導入するため、令和8年度当初予算で計上したのでは間に合わない可能性があるからです。そのため、令和7年度中に契約を行い、夏休みの導入に向けて準備を行っていきます。

なお今回、先生が職員室で使用する校務用パソコンと先生が教室で授業のために使う指導者用タブレット端末を一体化することで、端末の費用を削減するとともに業務の効率化を図りたいと思っております。端末については、現在使用している15インチのノートパソコン、よく自宅にある大きさのノートパソコンと比べて画面のサイズが少し小さい13インチになりますが、タッチ操作ができる、キーボードを取り外すとか回転させることによって、教室でもタブレットとして使いやすいものを導入する予定です。また、職員室で校務がしやすいように端末とは別に画面が回るような23インチのモニターを併せて導入します。

2点目です。教育情報化事業。校務系クラウド構築委託料7,993万円を債務負担として9月議会に計上します。本市では、令和2年度にGIGAスクール構想に基づいてこどもたち一人ひとりにタブレット端末を配布す

とともにクラウド環境を整備し、授業でのICT化を進めてきました。一方、教職員が事務を行う校務の環境は、セキュリティを確保するために学習の環境とはネットワークを分離して、職員室内で固定の端末でしか利用できないなど働き方改革や教育のデジタル化の流れに合わなくなってきてています。本事業では、教育委員会内のサーバー上で構築された校務用のアカウント、グループウェア、ファイルサーバーなどの機能をクラウド環境に移行して、より強固なアクセス制御によるセキュリティ対策を導入して、オンラインならどこでも安全に校務が行える環境を整えるものです。国の方針に合致した政策をしております。これにより、データのやり取りや端末の使い分けによる負担を減らして、児童に向き合う時間を確保していきたいと思っております。

債務負担としましては、先ほどと同じ夏休み中に導入を図るためでございます。

あと、生きる力育成事業として、令和7年度自然学校自動車借上げ料の実績による減額補正を行っております。

以上です。

(片山教育長)

それでは、ただいまの報告につきまして、何か質問はございませんか。質問がなければ、令和7年度9月補正予算の概要について、を終わります。

## 日程第6

### その他

日程第6 その他に入ります。その他各課から連絡事項ありませんか。よろしいか。

## 日程第7

### 次回定例教育委員会の開催日程

日程第8 次回定例教育委員会の開催日程について、事務局からお願ひいたします。

次回の定例教育委員会は9月25日木曜日午前10時15分からの開催でお諮りします。会場につきましては、丹波市立中央図書館ということで、異動教育委員会として開催したいと考えております。

事務局からは以上です。

(片山教育長)

委員のご都合、いかがでしょうか。

では、9月25日、午前10時15分から丹波市立中央図書館視聴覚室で開催いたします。

以上をもちまして、全日程が終了いたしましたので、本日の定例教育委員会を閉会いたします。ご苦労さまでございました。